

【 講座・講話・グループ協議の振り返り 】

1. 現在、小学校で臨任として働かせていただいています。その中で何もわからないまま1年間過ごしながら、かわさき教育プランやキャリア在り方生き方教育について多少の知識を身に付けていました。しかし、今日の講義の中で、学校で取り組んでいたあの活動は、これにつながるのかとスッと落とし込むことができました。また、1年間の中で自校の教育活動を見つめなおしていおきたいと思えるきっかけになりました。
2. 母親視点でのお話を聞くことができ、自分が経験のしたことのない立場の話であり、同時に保護者としての意見はとても新鮮でした。また、「子どものことを教員が決めつけるのはダメ」という裏のエピソードに衝撃を受けたとともに、私はならないぞと決意しました。
3. 私は現在、特別支援級で担任をしていますが、6年生がおり、保護者の方から進路について相談されることが多くあります。卒業後の進路のことや、就労に関して知識が少なかったため、今日の講義を聞くことができ、大変助かりました。今後の進路指導へつなげていきたいと思えます。
4. 保護者の方の目線も交えてのお話だったので、特別支援の現場で臨任として働く者として、一言一言が身にしみました。川崎市が特別支援級の全校配置を全国に先駆けて行ったことなど、問題意識を高く持っていることが保護者として勇気づけられたという点に、川崎市の学校に勤務する者として誇らしかったです。
5. 「元気は出るものではなく、出すもの」「見えない仕事は進んで行く、見える仕事はみんなで行う」といった生徒に聞かせてあげたい言葉が学ばれました。また、生徒指導は時間があるときに、ゆっくり生徒の言葉を聞き出してあげることや、「褒めるはアクセル、叱るはブレーキ（ほめる：叱る=7：3）」といった心構えについて学びました。
6. 生徒のほめ方で「噂を使ってほめる」という話がありました。この話を聞いて「～さんのこと、みんなが苦情を言ってるよ」というような叱り方など、「噂を使ってほめる」と逆なことをしてしまっていないかどうかを、大人は反省しなければいけないと思いました。
7. 特別支援について私も現在、臨任で勤めていて考えさせられる場面が多く、ヒントを得られたようでとてもよかったです。「合理的配慮」や「困り感」を個々で把握し対応できるよう、その視点から改めて見直そうと思った。障がいの子どもの社会進出や、また障がい自覚をもっていない子どもに対する福祉のルートへの繋げ方が私の今の課題である。
8. 私が担当している児童の中に聴覚過敏の子どももいます。他の児童の発する声におびえて生活している姿を見ると、別室学習まで静かな環境に移動することも合理的配慮かと考えますが、集団で過ごす機会も大切にしたい思いがあり、そのバランスに日々苦悩しています。

9. 人権尊重教育と国際理解教育の講話を聴き、実習先にも外国籍の子どもがいて、校外学習もリュックではなくランドセルで来たことがありました。特別支援コーディネーターの先生だけでなく、用務員さんもその子の母国語の勉強をされていて、学校全体で支えている姿を見ました。その子には伝わっていないかもしれないけど、共生のための努力はいっぱいあって、それが川崎市の教育の姿だと思っています。私も子ども達に様々な背景を抱える人と出会い、共に生きる方法を考えられるような機会を作ることができる存在でありたいと思います。ゼミの中では実際に現場で働いている方々も多くいたため、多くの改善点いただくことができた。この経験はとてもためになった。自分の中で論作文は非常に苦手だが、頑張ろうと思いました。
10. ゼミでは、実際に現場経験のある先生に囲まれ、とても刺激になった。また、それぞれの論作文を見ることで新しい発見や気づきがあり、充実した時間になった。
11. 共生・共育プログラムとしてのアイスブレイキング、構成的グループエンカウンターの手法を学びました。少しずつ他者との接触を増やすことで自己開示に迫ることや、必要な配慮などが知ることができました。私自身苦手な分野だったので、夏休み明けなどの場面で活用していきたいと思っています。

【 ゼミ．実習の振り返り 】

1. ゼミの中では実際に現場で働いている方々も多くいたため、多くの改善点いただくことができた。この経験はとてもためになった。自分の中で論作文は非常に苦手だが、頑張ろうと思いました。
2. ゼミでは、実際に現場経験のある先生に囲まれ、とても刺激になった。また、それぞれの論作文を見ることで新しい発見や気づきがあり、充実した時間になった。
3. ゼミは、目標とする教師像がより明確になるきっかけとなっています。また、ほかの先生方との意見交換の中で教師という仕事は他者から色々な事を吸収しなければならないのだと改めて痛感させられました。人の心はダイヤモンドであり、これを磨くのは人とのコミュニケーションでしかないという格言を知ったのですが、この会はまさにその役割を果たしてくれる存在となっています。
4. 共生・共育プログラムとしてのアイスブレイキング、構成的グループエンカウンターの手法を学びました。少しずつ他者との接触を増やすことで自己開示に迫ることや、必要な配慮などが知ることができました。私自身苦手な分野だったので夏休み明けなどの場面で活用していきたいと思っています。
5. 様々な学校で児童と関わる人と時間をたっぷり使って話し合うことは、大学にはできないことなので、今日改めてこの会に参加してよかったと思いました。

平成30年度の輝け☆明日の先生の会も、あっという間に全8回の講座が終わりとなります。

教師という仕事を考えると、人の一生にかかわる仕事、一生を左右してしまう大切な仕事に携わるといふ大きな職責をいつも意識していかなければなりません。

限界のない仕事を頑張って進めていくということがついて回ります。

そんな時に、「目標をすでに起こった未来として肯定し、何んのくもりもなく受け入れることができれば、その結果がもたらされる。」と、菊池省三氏は述べている。自分が頑張ったら、自分自身をほめる。誰かほかの人が良い行いをしたら、相手をほめる。

肯定的な言葉を繰り返して意識に刻み込み、未来を肯定する方法で目標を達成していくことができれば素晴らしいと思います。

「教師になることはむずかしい。教師であることもむずかしい。教師である続けることはさらにむずかしい」

そんな教師としての土台に「三カン」を持ってほしいと思います。

1. どんなことにも関心を持つ。知っているではなく、もっと知りたいと学ぶ意欲につなげる。
2. 感度する心を大切に。感性を磨く努力を怠らずに子どもともに感動する。
3. 感謝の気持ちを持つ。人の話や意見を素直に聞き、自分の経験に慢心しないこと。

「関心、感動、感謝」の気持ちを忘れずに、前向きに教師として、人間としての力をつけてほしい。まずは、社会人としての常識、傾聴態度、教育に対する情熱、同僚との協調性を培い、人間として周囲から信頼される人間性の向上から始めてほしいと思います。

私たち教育に携わる者は、子どもたちの未来が笑顔輝くために、今、どのような教育が必要なのか、どうしたら子どもが笑顔で輝くのか、考え取り組んでいく必要があります。また、その時には、教師が自分の言葉や経験、姿を輝くものしていく努力をしていかなければなりません。

臨任、非常勤、将来教師をめざす社会人、大学生、様々な立場、年齢の方の4つの輪に講師、助言者の輪を入れて5つの輪が1年間、この講座で共に学んだことを大切にしたいものです。

またどこかの学校や研修の場でも出会うこともあると思います。そんな時には、今年の5つの輪を忘れずに絆が深められるとよいと思います。

「一番大切なことを、一番大切にすることが、人生の一番大切なこと」という言葉があります。受講生の皆さんにとっても、それぞれ学校で大学で、職場で、今、自分や関わる人や子ども達にとって何が大切なのかをいつも考えて言動していくことが大切なことだと思います。